

2012 Japan Tour /

音楽監督 高原守が率いるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(N. Y. S. E.)恒例の日本ツアー。長年創り上げてきたN. Y. S. E. 独特の精神で力強い、豊かで情感あふれる音楽を提供。若い演奏家を演奏会に積極的に招いて広く紹介しており、その育成に熱心なことでも知られる。



ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル New York Symphonic Ensemble

1979年、ニューヨーク・メトロポリタン室内楽管弦楽団として活動をスタート。その後現在の名称に改められ、今年で31シーズンを迎える。ニューヨークフィルやメトロポリタン歌劇場管弦楽団のメンバーやブロードウェイで活躍するアーティストなど、ニューヨークの第一線で活躍する音楽家たちで編成されたアンサンブル。室内楽、ソロ活動にも意欲的で、優れたキャリアを持つ有名アーティストが多数加わっているため、ソロをフィーチャーした作品を多くレパートリーとしている。毎年、ニューヨークの国連本部で開催されるUNFPA(国連人口基金)の表彰式典では、世界中の受賞国の音楽をアレンジした演奏で好評を博している。85年の初来日以来、毎年のように日本を中心とするアジア・ツアーを行っている。

高原 守 Mamoru Takahara 指揮・音楽監督

1979年より、ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(N. Y. S. E.)の音楽監督および常任指揮者を務める。

国立音楽大学卒業後、レナード・バーンスタインにその実力を認められ、ニューヨーク・フィルハーモニックで指揮を学ぶため渡米。

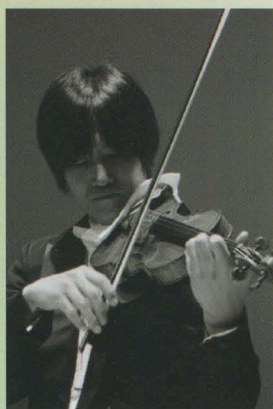
その後、ニューヨークを拠点に指揮者として本格的な活動を始め、79年にニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの前身であるニューヨーク・メトロポリタン室内楽管弦楽団の音楽監督に就任して以来、楽団を率いて活発な活動を展開してきた。

1990年からはパナソニックのサウンド・テクノロジー・コンサルタントも務めている。

音楽交流による日米親善に貢献した功績により、平成21年度外務大臣表彰を受賞。



鈴木 健史 Takefumi Suzuki ヴァイオリン



サレジオ学院中・高等部、東京音楽大学卒業。同大学在学中ザルツブルグ音楽祭・国際音楽アカデミーにてヤープ・シュレーダー教授のマスタークラスに参加、モーツァルトウム音楽院にてディプロマ取得。90年、ミュンヘン国立音楽大学夏期特別講座にてクルト・C. シュティアー副学長に師事。同氏の推薦によりミュンヘン市にて修了記念コンサートに出演。NYマネス音楽院に進み、ディプロマ取得。学部長推薦による全額奨学生としてボストン大学大学院に入学。D. オイストラフの高弟Y. マズルケヴィッチ教授夫妻に師事、Director's Award 受賞。

ニューヨーク、ボストンにてリサイタル開催。ヨーロッパ、アメリカ、カナダの音楽祭コンサートに出演。帰国後「緑区制30周年記念・緑区民音楽祭新人演奏会」「横浜国際交流ラウンジ主催コンサート」に出演など、ソリストとして活動を展開するかたわら数多くのチャリティーコンサートにも出演。大阪、新潟、徳島などでもリサイタルに出演、好評を得た。2005年よりニューヨーク・シンフォニック

・アンサンブル(NYSE)のジャパンツアーに毎年ゲスト参加。

2009年2月、横浜開港150周年記念コンサート(みなとみらいホール)で、高原守指揮の開港記念オーケストラの首席を務めた。同年8月NYSEジャパンツアー横浜公演で、ソリストとしてメンデルスゾーン

のヴァイオリン協奏曲を協演。同年9月朝日新聞大阪本社アサコムホール主催のリサイタルに出演。NYSEジャパンツアーの2010年7月横浜公演では、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番、2011年7月京都公演では、サン＝サーンス作曲、序奏とロンドカプリチオーソと、ドヴォルザーク作曲、ロマンス へ短調を、いずれもソリストとして協演し好評を博した。これまでに鷺見健彰、篠崎功子、堀正文、藤原浜雄の各氏に師事。

<http://violinconcerto.web.fc2.com/index.htm>

鶴見区民文化センターサルビアホール

横浜市鶴見区鶴見中央1-31-2 シークレイン内

☎045-511-5711 FAX045-511-5712

JR 鶴見駅東口から徒歩2分

京急鶴見駅西口から徒歩2分

